平成 30 年度
横須賀美術館　運営評価報告書
（一次評価）

令和元年（2019 年）７月

横須賀市教育委員会

美術館運営課

Ⅰ　美術を通じた交流を促進する

① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】年間観覧者数 100,000 人以上

［目標設定の理由］

・「横須賀市立美術館基本計画」（平成12年６月策定）では、他の公立美術館の実績を参考に、施設の規模、本市の人口などから年間観覧者数を10万人と推定し、開館後の実績としても初年度を除き10万人前後で推移しています。

・そのため当館では、まず観覧者目標を10万人以上とし、展覧会内容のバランスを考えながら展覧会を決定しています。

・観覧者の見込み数は、展覧会ごとの開催時期や過去に開催したターゲットの近い展覧会の実績などを勘案し算定しています。

・平成30年度は、これまで毎年達成すべき観覧者数としてきたミニマムライン10万人以上を達成目標とします。

［一次評価の理由］

・年間観覧者数100,000人という目標設定に対し実績は、111,433人となり、達成率111.4%と目標を上回ったことから「A」評価としました。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
観覧者数	114,861 人	108,413 人	118,370 人	111,431 人

展覧会名		観覧者数 見込(人)	観覧者数 実績(人)	達成率
企画展	青山義雄展	2,000	2,541	127.1%
	集え！英雄豪傑たち	18,000	12,804	71.1%
	三沢厚彦　ANIMALS in YOKOSUKA	30,000	35,868	119.6%
	モダンアート再訪	20,000	21,271	106.4%
	矢崎千代二　絵の旅	5,000	6,826	136.5%
	第71回児童生徒造形作品展	14,000	14,854	106.1%
	野口久光シネマ･グラフィックス	9,000	10,626	118.1%
所蔵品展のみの期間		6,000	6,641	110.7%
合　計		104,000	111,431	107.1%

【実施目標】

・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する。

・各種イベントを開催し、展覧会以外の要因での利用を増やす。

・外部連携を推進し、様々な機会と場所を捉えて、美術館の情報を発信する。

・旅行会社などへの働きかけを通じて、団体集客を促進する。

・商業撮影の受入と誘致を推進し、美術館のイメージアップを図る。

［目標設定の理由］

・横須賀美術館は、本市の貴重な都市資源であり、これを有効活用することは、本市のシティセールスや交流都市の推進という観点からも重要になります。

・市内外に積極的に情報を発信して広い層に魅力をアピールすることで知名度や認知度を向上させていくことが必要と考え、実施目標として設定します。

・広報、パブリシティ活動にあたっては、当館の利用者層や展覧会ごとのターゲット層に応じた効果的な広報を実施します。

・そのために、様々な広報媒体をその特性を踏まえて効果的に活用し、特に若い世代に対しては積極的にツイッターなどのＳＮＳを活用していきます。

［一次評価の理由］

・無料での情報掲載数が前年に比べ大きく伸びていること、商業撮影の件数等が目標を達成し、またツイッターのフォロワー数が前年に比べさらに増加し9,224人となったことから、「A」評価としました。

≪広報・集客促進事業≫

展覧会、イベント、ロケーションなど横須賀美術館の魅力をフル活用し、横須賀の交流拠点として集客に取り組んでいきます。そのために、企画展情報だけでなく、美術館の総合的な魅力や外部との連携による地域情報を積極的に発信していきます。

（１）訴求活動による集客促進

・パブリシティを期待した新聞、雑誌等への展覧会リリース

・新聞、雑誌等の無料での情報掲載数は 320 件となり、目標の 220 件の 1.45 倍を上回る数字を達成することができました。

（単位：件）

媒体	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
新聞	53	52	131	183
雑誌	55	64	65	45
Web	26	11	4	29
フリーペーパー	57	42	22	39
書籍	4	5	2	1
会報誌	8	4	0	2
TV	12	13	13	17
ラジオ	6	3	10	4
その他	6	1	4	0
合計	227	195	251	320

・広報よこすか等他部局の広報媒体を活用した情報発信

⇒毎月の広報よこすかへの展覧会情報、美術館のイベント等の掲載

・公共交通機関への広告掲出

⇒京浜急行線　駅貼り（２週間）５回、窓上（４週間）５回

※ 児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施

⇒東急東横線　窓上（１ヶ月）１回

※　三沢展で実施

⇒京王線　　新宿駅・渋谷駅など駅貼り（会期中随時）３回

※ 児童生徒造形作品展を除く各企画展で実施

・その他広告掲出

⇒横浜ランドマークサイネージ　（モダンアート展）

横浜駅デジタルサイネージ　（野口展）

品川駅上野駅サイネージ　（モダンアート展）

横浜駅ポスター　（英雄展）

鎌倉駅・上野駅ポスター　（英雄展）

田園都市線窓上サイネージ　（三沢展）

・美術系雑誌やタウン紙等、有料での情報掲載
⇒新聞、タウン紙等での広告
毎日新聞（英雄展　モダンアート展、野口展)、タウンニュース（英雄展）
はまかぜ新聞（三沢展）
・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを活用した情報発信
⇒ホームページは随時更新しています。
⇒美術館公式ツイッターの運用状況
フォロワー数は9,244人で昨年度末9,017人より約227人増加しました。

【参考】平成31年３月31日現在　フォロワー：9,224人、ツイート：4,008回
※ ツイッターは平成24年９月29日より運用開始
⇒フェイスブックの運用状況
（運用開始:谷内六郎館 平成 27 年７月 31 日～､横須賀美術館９月９日～）
横須賀美術館：2,329「いいね！」、谷内六郎館：324「いいね！」
ＳＮＳ毎の特性を生かした情報発信に努めていきます。

（２）イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進
・コンサート等、各種イベントの開催

開催日	イベント名	参加者
12/24	クリスマスコンサート	延べ390人
2/17	マジックワークショップ	18人（定員20人）
3/30	横須賀シーサイドジャズコンサート	延べ450人
3/31	蓄音器コンサート	21人（定員20人）

・年間パスポート、前売り券の販売

		29 年度		30 年度	
	販売場所	販売枚数	利用回数	販売枚数	利用回数
パスポート	美術館	325 枚	2,027 回	348 枚	2,225 回
	芸術劇場	29 枚		22 枚	
	計	354 枚		370 枚	
前売り券	美術館	44 枚	170 回	59 枚	176 回
	芸術劇場	146 枚		125 枚	
	計	190 枚		184 枚	

（３）外部連携の推進

①他部局との連携

・カレーフェスティバルなどイベント参加による情報発信

⇒カレーフェスティバル（5/19-20）や産業まつり（11/3-4）などへの協賛

・集客促進事業への協力

⇒横須賀体感モニターバスツアー

・米海軍横須賀基地在住者の誘致

⇒What’s New in Yokosuka（外国人向け広報紙）への展覧会情報の掲載

訪日外国人アクセス環境向上事業（11/4・11/18)クーポン持参者に2割引き

外国人観覧者数（H28年度から集計）

	西洋系	東洋系	その他	計
H28年度	812人	598人	15人	1,425人
H29年度	712人	694人	55人	1,461人
H30年度	676人	843人	93人	1,612人

・ふるさと納税へ商品提供

⇒観覧券＋レストランアクアマーレの食事券の提供

②民間事業者との連携

・民間事業者との広報協力、イベント参加による情報発信

⇒広報協力（観音崎京急ホテル、ソレイユの丘、うらり、すかなごっそ　ほか)

⇒各種学園祭等のイベント協力によるＰＲ

日本大学学園祭（法桜祭 11/2-3、砧祭11/3-4)、
立正大学学園祭（橘花祭 11/3-4）
慶應義塾大学学園祭（矢上祭 10/6-7）
聖心女子大学園祭（聖心祭10/20-21）
早稲田大学学園祭（理工祭 11/2-3）
高千穂大学学園祭（高千穂祭 10/19-21）
獨協大学（雄飛祭11/2-3）
東洋大学学園祭（白山祭11/3-4）
実践女子大学（常盤祭11/3-4）

・福利厚生団体等との割引施設契約の実施

⇒ＪＡＦ、ＪＴＢベネフィット、リロクラブ、神奈川県厚生福利振興会

神奈川県市町村職員共済組合　など

・京浜急行電鉄発行のよこすか満喫きっぷへの参加

	平成29年度(7月開始)	平成30年度
利用者数	1,432人	2,350人

③近隣地域との連携

・町内清掃、防犯パトロールなど地域活動への参加

⇒町内清掃などの地域活動への参加や町内会での美術館ＰＲ

・観音崎全体の魅力を向上させるためのイベントの開催

⇒観音崎フェスタへのブース出店（11/3）

・地域での消費活動を促進する取り組みの検討
⇒タイアップメニューの実施
各企画展で実施している併設のレストランアクアマーレで実施

（4）団体集客の推進
・市内民間事業者と連携した企画を含めた旅行会社への団体ツアーの企画提案、誘致
⇒旅行事業者営業訪問
（クラブツーリズム、HIS）
経済部主催の観光商談会（31.2.6）
⇒募集型企画旅行による観覧者が前年より増
・ウェルカムトークの実施
⇒希望に応じて実施

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数	団体数	観覧者数
募集型	4	113	15	525	11	393	18	549
その他	145	5,704	112	4,187	103	4,039	134	5,300
計	149	5,817	127	4,712	114	4,432	152	5,849

（5）商業撮影の受入と誘致
・イメージアップと認知度の向上を目的に商業撮影を受け入れた。
⇒30件を目標としたが、最終的に37件となり目標を達成した。
（スチール29件、動画8件）

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
撮影件数	33件	30件	34件	37件
使用料	1,517,681円	1,263,392円	1,484,741円	2,134,645円

② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数 延べ 2,400 人
（事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して）

［目標設定の理由］

・活動者数および協働事業への参加者数は「活動が活発に行われているか」「魅力的な活動を企画しているか」をはかるための指標のひとつとなるものです。

・平成30年度は、ギャラリートークボランティア、小学生美術鑑賞会ボランティアともに新規募集するため、研修の回数は29年度よりも多くなります。

＊ギャラリートークボランティア登録者数　16名（平成30年1月末時点）

＊小学生美術鑑賞会ボランティア登録者数　17名（平成30年1月末時点）

・みんなのアトリエボランティアの登録者数自体は増えていますが、アトリエ参加者の定員数に対し、ボランティアは２～３名と決まっているので、活動自体は横ばいとなっています。

＊みんなのアトリエボランティア登録者数　15名（平成30年1月末時点）

・平成30年度は秋にイベントを行わないため、29年度と同等となることが予測されます。

＊プロジェクトボランティア登録者数　15名（平成30年1月末時点）

・年間の活動日数、ボランティアの参加状況、イベント参加者数の動向をふまえ、平成30年度の目標は、延べ2,400人とします。

［一次評価の理由］

・平成30年度の延べ参加者数は2,507人となり、目標を上回りましたので、A評価としました。

・ギャラリートークボランティアの参加者数について、30年度は新規募集を行い、研修の機会を増やしたことと、土曜日を除いた祝日にもギャラリートークを行うようにしたことが影響し、参加者数（活動者数）は95人増えました。また、年に2回ある無料観覧日のうち、11月3日（祝・土）は、企画展「モダンアート再訪」において待ち受け型のギャラリートークを行い、多くの来館者がボランティアのギャラリートークに参加してくれました。2月17日（日）は、所蔵品展にて待ち受け型のギャラリートークを行い、来館者サービスの向上とボランティアのモチベーション維持を期待しました。

・小学生美術鑑賞会ボランティアの参加者数については、新規ボランティアが増えたため、研修の回数を増やし、1校あたりに付き添う人数も増やしたことが、参加者数の増加に影響しています。

・プロジェクトボランティアの活動について、30年度は通常通り年3回（GW、夏、冬）のイベントを開催しました。各回とも定員制のイベントとしたことや、受付を通らない参加者をカウントしていないイベントがあったため、全体的な参加者数は減っていますが、当日自由参加できるイベントも同時に開催し、誰もがイベントに参加できるようプロジェクトボランティアが工夫しています。

・みんなのアトリエボランティアの参加者数については、申出をすべて受け入れた結果、前年度に比べて増加しました。また、そうすることによって、ボランティアのモチベーションも維持できているかと思います。

市民ボランティア協働事業への延べ参加者数　（単位：人）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
ギャラリートークボランティア	284	334	338	433
小学生美術鑑賞会ボランティア	180	263	197	269
みんなのアトリエボランティア	20	34	21	39
プロジェクトボランティア	210	283	272	229
プロジェクト当日ボランティア	38	27	49	26
小計	732	941	877	996
ギャラリートーク参加者	274	371	453	656
ボランティアイベント参加者	1,142	1,350	1,363	855
小計	1,416	1,721	1,816	1,511
計	2,148	2,662	2,693	2,507

【実施目標】

・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる。

・市民ボランティアが、やりがいを持っていきいきと活動できる場を提供する。

［目標設定の理由］

・ボランティアと協働することにより、市民にとって親しみやすい美術館により近づくことができます。美術館への親近感や愛着を持ったボランティアの方々を架け橋として、より広い層の市民に美術館の魅力を知っていただく機会を増やしたいと考えています。

・ボランティア活動は労働ではなく、美術館が担うべき社会教育の一環として考えています。ボランティアがそれぞれの経験やアイデアを活かし、仲間どうし協力し、美術館ならではの活動をしていくこと、そして、それがやがて地域の新しいコミュニティとなることを期待しています。

・ボランティア活動がより広がるよう努めます。例えば、ギャラリートークボランティアの活動を周知したり、小学生美術鑑賞会ボランティアやみんなのアトリエボランティアのような美術館の事業に関わる活動の充実などを検討していきます。

［一次評価の理由］

（全体として）

・活動の目的や内容が異なるので、基本的にはギャラリートークボランティアと小学生美術鑑賞会ボランティアの活動は分けて考えていますが、昨年度に引き続き、学芸員による所蔵品展や企画展のレクチャーについては、希望すれば横断的に出席できるようにしました。ボランティア同士の交流の場となると同時に、お互いの活動に興味を持つ様子が見られます。

（ギャラリートークボランティアについて）

・新規募集にともない、従来の研修内容を見直し、ボランティアが作成したトークプランを、学芸員がチェックすることを繰り返すようにしました。すると、新規ボランティアだけでなく、従来のボランティアにも変化が見られ、ギャラリートークに対する姿勢・態度・技術も少しずつ向上しているようです。なお、従来通り、各学芸員が持ち回りで、美術史に関するレクチャーも行いました。

・無料観覧日に企画展「モダン・アート再訪」のギャラリートークを行い、より多くのお客様の満足度を上げることに貢献しました。

・所蔵品展でのギャラリートークでは、担当者間で取り扱う作品を分担し、それぞれ工夫した個性的なトークを毎週展開しています。

（小学生美術鑑賞会ボランティア）

・企画展毎に、担当学芸員によるレクチャーを行い、企画展でもボランティアが安心して小学生を受け入れられるようにしました。

・ボランティア２名に１クラスの引率を任せており、責任感とやりがいを持って取り組んでもらいました。

（「みんなのアトリエ」ボランティア）

・30年度も新規登録者が増えました。これまでも活躍していたボランティアは経験が豊かになり、参加者と自然な交流ができるようになりました。
・ボランティアを希望された方全員にお手伝いいただくようにしたことで、継続的な活動ができました。

（プロジェクトボランティアについて）

・30年度は、ＧＷ・夏・冬にイベントを企画・開催しました。各回ともボランティアと会議を重ね、定員制のイベントとすることにしました。ボランティアイベントにさまざまなバリエーションを持たせることで、ボランティア・参加者ともに楽しめるイベントになりました。
・プロジェクトボランティアのイベントは、「だれでも参加できる」「美術館を活かした活動」という点に留意しながら、ボランティア自身が発案し運営するイベントです。それぞれのイベントは地域の行事として定着し、市民を中心に多くの方が参加しています。
・ボランティアの経験値が高くなったことで、イベント開催に向けて着々と準備が進められるようになりました。また、当日の進行がスムーズに行われています。
・プロジェクトボランティアのイベント開催に向けてさまざまな方法や道具を試すなど、各活動において、ボランティアに対して細かい対応ができています。

［次年度への課題］

・ギャラリートークボランティアの普段のトークをふりかえり、より良くするための研修を引き続き行います。
・小学生美術鑑賞会ボランティアについては、タイムキーパーとしての役割に加え、児童の鑑賞活動をよりサポートできるよう、学校への出前授業等も視野に入れて、研修の回数を増やしていきます。
・プロジェクトボランティアの意向を尊重しながら、安心・安全なイベントの開催をサポートします。

Ⅱ　美術に対する理解と親しみを深める

③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】企画展の満足度 80%以上※

［目標設定の理由］

・展覧会を企画・実施することは、美術館にとって基本的な活動のひとつであり、中でも、企画展は、波及効果が高く、最も力を注ぐべき事業といえます。こうした認識から、企画展に対する来館者の満足度を、美術館の社会教育機能の高さを示す目安としました。

・満足度は来館者へのアンケートによって算出しており、同じ方法の調査を継続的に行っています。「作品」「観覧料」「配置・見やすさ」「解説・順路」「心的充足」「総合」の各項目について調査し、「総合」の満足度を指標としています。

・各項目についての満足度を見ていくと、「観覧料」「解説・順路」の内の順路については、満足度を上げていくことには限界があり、一方「作品」「配置・見やすさ」そして解説については改善の余地があります。

・ここ数年の数値の変化の経緯を総合的に判断し、目標を80%以上としました。

※ なお、年度ごとの「企画展満足度」を算出する際には、それぞれの企画展の観覧者数の比率を反映させています。企画展Ａの観覧者数をＡ（人）、企画展Ａの満足度をａ（%）とするとき、年度ごとの満足度（%）は
（Ａａ＋Ｂｂ＋Ｃｃ＋Ｄｄ＋Ｅｅ＋Ｆｆ）／（Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ＋Ｅ＋Ｆ）
で表します。

［一次評価の理由］

目標の「80%以上」を超える 87.4%という数値となりました。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
企画展満足度	87.0%	88.0%	89.6%	87.4%

企画展別にみると、「集え！英雄豪傑たち展」は、英雄豪傑をモチーフとして浮世絵、日本画、現代美術と幅広い作品を出品しました。とりわけ心的充足が92.7%と高く、「作品」も90.9%と高い数値を得ています。

「三沢厚彦　ANIMALS in YOKOSUKA」はバリエーション豊富な動物彫刻を手掛ける人気作家の三沢厚彦の個展です。「作品」については93.9%、「配置・見やすさ」は88.0%という数値で、質量共に充実した作品群や一部撮影を可能にしたことも手伝って高い満足度となりました。

「モダンアート再訪」は優れたコレクションを所蔵する福岡市美術館の近現代美術作品約70点で構成しました。「作品」は83.7%、「配置・見やすさ」は82.6%と高い数値でしたが、「解説・順路」では69.6%、「観覧料」は73.0%でした。現代美術が数多く含まれており、難解と感じたことの反映と分析していますが、「総合」では80%を超えています。

「矢崎千代二展　絵の旅」は、横須賀出身の画家であり、開館前より継続して作品を収集してきた矢崎千代二を紹介した回顧展です。穏やかな画風でもあり「作品」は98.4%、「配置・見やすさ」は88.3%と高い数値となり総合的には90%という結果となりました。

「野口久光　シネマ・グラフィックス」は、生涯にわたり1,000枚以上の映画ポスターを描き続けた野口久光の展覧会でした。「配置・見やすさ」は88.1%、「作品」については85.4%と高い数値が出ました。総合的には87.4%となりました。

毎年恒例となっている「児童生徒造形作品展」の観覧者の多くは出品された子どもたちの関係者であり、内容を批判する要素に乏しいことから、他の企画展と満足度を比較するには注意が必要ですが総合的に88.1%と高い満足度を示しています。

また、要素別に満足度を検討すると、「観覧料」「解説・順路」については、80%を下回るなど相対的に低い数値となっており、改善が難しい点もあります。一方、「作品」や「配置・見やすさ」については概ね高い数値となっています。

【実施目標】

- **幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間６回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する。**
- **所蔵品展・谷内六郎展をそれぞれ年間４回、テーマをもたせた特集を組みながら開催する。**
- **知的好奇心を満たし、美術への理解を深める教育普及事業を企画・実施する。**
- **美術への興味や関心が深まる美術関連の資料（図書、カタログ等）を、図書室で収集・整理・保管・公開する。**
- **資料が探しやすく、快適に利用できる図書室環境を維持する。**
- **主として所蔵作品・資料に関する調査研究を行い、その成果を美術館活動に還元する。**

［目標設定の理由］

社会教育機関としての美術館は、常に知的好奇心を満足させる事業を行い、また、そのための環境を整えていかなくてはなりません。美術として扱うべき領域はとても広く、利用者の幅広い興味に応えるためには、所蔵品展以外にもさまざまなテーマを設けた企画展を開催する必要があります。作品の借用が許される期間に限度があることなどを考慮し、１カ月半から２カ月程度を目安とした年間６回の企画展を計画･開催しています。

また、コレクションの魅力を紹介するために、所蔵品展および谷内六郎展をそれぞれ年間４回開催しています。

さらに、横須賀美術館では、美術への親しみ、理解を深めるために、講演会やワークショップなど、年間を通じてさまざまな教育普及事業を展開しています。ここでは、広く一般向けの教育普及事業について、評価の対象とします。

これらの事業を企画・実施するための基礎が、調査研究です。範囲は、所蔵作品に関することを中心に、広く美術に関すること、教育普及に関することを含みます。

［一次評価の理由］

30年度の企画展は、親しみやすいテーマ展、人気の現代作家の個展、横須賀出身の近代画家の個展など多岐にわたっていました。

「集え！英雄豪傑たち展」は神話や歴史上の英雄豪傑たちをテーマにし、浮世絵、日本画、現代美術と幅広いジャンルの作品を集めました。またイラストを使用した解説パネルを作り、横須賀に関連した作品やおもちゃ絵や双六など親しみやすい展示を心がけました。

「三沢厚彦　ANIMALS in YOKOSUKA」では、樟から彫りだした様々な大きさ、種類の動物彫刻を手掛ける三沢厚彦の作品を紹介しました。子どもから大人まで幅広い年齢層の方々が楽しめるよう、写真撮影スポットを設けた他、屋外や風除室など館内のあちこちにも作品設置し、美術館の空間全体を活かした展示となりました。

「モダンアート再訪」は、福岡市美術館のすぐれた近現代美術コレクションで構成した展覧会です。三岸好太郎、海老原喜之助といった近代絵画やミロ、ダリ、ウォーホルなど20世紀美術を語る上での重要な作家、戦後の日本の前衛など約70点を紹介しました。

「矢崎千代二展　絵の旅」は世界各地を旅しながら、パステルによる数多くの風景画を残した横須賀出身の画家をとりあげた回顧展です。開館前より継続して収集したパステル画に加え、初期の貴重な白馬会時代などの油彩もあわせて展示しました。

「野口久光　シネマ・グラフィックス」では、戦前、戦後の映画の黄金時代に東和商事に所属し、手描きの1,000枚以上の映画ポスターを手掛けた野口久光の約400点に及ぶ作品・資料をご紹介しました。一方野口にはジャズ評論家という面もあり、ジャズのレコードジャケットや演奏家の肖像もあわせて展示しました。

所蔵品展では、会期ごとに特集を組み借用作品も加えて、より魅力のある展示となるよう努めました。

第１期では、当館で所蔵する洋画家・金沢重治の作品１点に借用作品17点も加え、まとまった展示を行いました。

第２期では、特集として若くして亡くなった横須賀ゆかりの画家・中園孔二の作品を北側展示ギャラリーに数多く展示し、反響を呼びました。

第３期では、「創立120周年記念　日本美術院の画家たち」と題し、所蔵する日本画を紹介しました。

第４期は京都で活躍し、独自の文化論や絵画論にも腕を振るった「三木弘」を、横須賀市内に保管されている小品でたどりました。

谷内六郎館では、所蔵品展の会期と連動して、年４回の展示替えを行っています。

30年度は、１期では「家族の存在」、２期では三沢厚彦展と連動したテーマ「どうぶつ大行進」、３期は「ろうけつ染めで描く四季」、４期では「なつかしの道具たち」というテーマをたてました。また第４期では絵の内容にあわせ、横須賀市立自然・人文博物館より借用した黒電話や振り子時計などの道具もあわせて展示しました。

教育普及事業（一般向け）については、一覧すると下表のようになります。

参加者と講師、主催者が互いに質の高いコミュニケーションを取れるよう、そのつど適正な規模を考えて実施しています。また、講師と美術館スタッフが打合せを重ね、入念な準備を行なっています。

平成30年度は、「三沢厚彦 ANIMALS in YOKOSUKA」展において、出品作家を軸とした教育普及事業を複数回行い、いずれの回も多くの参加者を得ることができました。また「野口久光　シネマ・グラフィックス」展に関連して行ったトークショーは、講師と近い世代の方々に好評で、新たな参加者層を開拓することができたと捉えています。

講演会・アーティストトーク　（単位：人）

タイトル	開催日	講師	定員	参加
「集え！英雄豪傑たち」クロストーク	5 月 20 日	野口哲哉（出品作家）、当館学芸員	70	61
カフェトーク「娘から見た谷内六郎・達子」	5 月 26 日	谷内広美（谷内六郎長女）	70	15
「三沢厚彦　ANIMALS in YOKOSUKA」展クロストークⅠ	7 月 1 日	三沢厚彦（出品作家）、森啓輔（ヴァンジ彫刻庭園学芸員）	70	53
「三沢厚彦　ANIMALS in YOKOSUKA」展クロストークII	7 月 7 日	三沢厚彦（出品作家）、寺田農（俳優）	70	70
「三沢厚彦　ANIMALS in YOKOSUKA」展アーティストトーク	7 月 14 日	三沢厚彦（出品作家）	―	80
「三沢厚彦　ANIMALS in YOKOSUKA」展関連観音崎自然博物館学芸員によるトーク	8 月 18 日	山崎和彦（観音崎自然博物館学芸部長）		12
「モダンアート再訪」展関連講演会「福岡市美術館コレクション形成史－最強コレクションのつくり方」	9 月 30 日	山口洋三（福岡市美術館学芸係長）	70	21
「矢崎千代二展　絵の旅」関連講演会「矢崎流〈絵の旅〉の法則」	11 月 18 日	横田香世（京都府文化芸術課専門幹）	70	29
「生誕 110 周年　野口久光　シネマ・グラフィックス」展関連スペシャル対談	2 月 19 日	渡辺貞夫（ジャズプレイヤー）、菅原正二（ジャズ喫茶ベイシーオーナー）	60	83
「生誕 110 周年　野口久光　シネマ・グラフィックス」展関連　大林信彦監督作品特別上映会『思い出は映画とともに』	3 月 10 日 11 時／15 時	栗林陵（当館学芸員）	70	28

学芸員によるギャラリートーク（各企画展）	5月19日 6月2日 7月28日 8月18日 10月20日 11月23日 12月15日 3月9日	当館学芸員	―	149 *合計

展覧会関連ワークショップ　（単位：人）

タイトル	実施日	講師	定員	参加
「三沢厚彦　ANIMALS in YOKOSUKA」展関連「木を彫ってレリーフをつくってみよう」	8月4～5日	三沢厚彦（出品作家）	15	13
「モダンアート再訪」展関連「ハーバリウムで表現する私だけのモダンアート」	10月14日	小野光里（HAP　café　& bar　主宰、日本ハーバリウム協会公認講師）	40	22
「矢崎千代二展　絵の旅」関連「わたしだけのパステルセットで、カラフル絵画に挑戦！」	12月1日	松浦佳代（画家）、山登大輔（王冠化学工業所）	25	25

オトナ・ワークショップ　（単位：人）

タイトル	実施日	講師	定員	参加
「招き猫の絵付け教室」	6月17日	五十嵐祐輔（張子人形職人）	32	33
「彦坂木版工房の木版画ワークショップ」彫り刷りコース	7月16日	彦坂木版工房（版画家）	10	10
「水引でつくるお正月飾り」	11月23日	KASUMI（水引デザイナー）	12	12

映画上映会　（単位：人）

タイトル	実施日	講師	定員	参加
冬のシネマパーティー 『バンクシー・ダズ・ニューヨーク』（日本語字幕版）	2月2日	キノ・イグルー（移動映画館）	30	30
	2月3日		30	28

他課との連携　（単位：人）

タイトル	実施日	講師	定員	参加
「生誕 110 周年　野口久光　シネマ・グラフィックス」展関連　中央図書館シネマ上映会『未完成交響楽』(16ミリ試写室主催。横須賀市中央図書館)	2 月 13 日	栗林陵(当館学芸員)	70	54
第 42 回　横須賀市市民大学　特別講座「野口久光展講義」と見学会(横須賀市生涯学習財団との共催。ウェルシティ市民プラザ)	2 月 17 日／2 月 24 日(美術館見学)	栗林陵(当館学芸員)	80	57／54
「生誕 110 周年　野口久光　シネマ・グラフィックス」展関連　中央図書館シネマ上映会『アンナ・カレニナ』(横須賀市中央図書館主催。横須賀市中央図書館)	3 月 17 日(11 時／14 時)	栗林陵(当館学芸員)	各 70	116

図書室については、定期購読雑誌、美術史・デザイン・建築・写真など幅広い分野の美術図書、他館で開催された展覧会図録、自館開催の企画展や所蔵作家に関連する資料、子ども向けの美術入門書などを、寄贈及び書店・古書店からの購入により収集し、展覧会を訪れる人、図書室の資料閲覧を目的に来館する人に利用されています。毎日の配架整理をはじめとした室内環境の維持に努め、レファレンス・サービスやコピー・サービスに対応しています。

④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	A

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数 22,000 人

［目標設定の理由］

子どもたちが美術館に親しみを持ち、利用しやすくするため、さまざまな取り組みを行っていますが、その成否は、実際の観覧者数に反映されるはずです。

従来、横須賀美術館では、一定の質を保った美術展を年間通してバランスよく行うこととし、春～秋には、子どもや家族層にも親しみやすい企画展を１つ以上開催しています。平成 29 年度は、9 月～11 月に開催した「ぼくとわたしとみんなの tupera tupera 絵本の世界」展が、未就学児を含む家族層から好評を得ました。一方で、中学生の利用が、ここ数年間の中では最も大きく減少しました。展覧会の内容によって、観覧者の年齢別の比率は、影響を受けやすいことがうかがえます。

平成 30 年度は、夏季に、動物をモチーフとした木彫作品で知られる三沢厚彦氏の展覧会を開催し、家族層へのアピールに努めます。また、秋に開催予定の「モダンアート再訪」展では、ミロ、ダリをはじめ、小学校高学年から中高生の興味を引きやすい作品が展示されるので、この年代の児童・生徒に向けた積極的な PR を心がけることとします。

また、学校連携については、メインとなる小学生美術鑑賞会に加え、教員を対象とした「美術館活用講座」を平成 29 年度より始めました。このほか、市内外の研究授業および公開授業にも積極的に参加し、学校と美術館の連携に関する先行事例を調査しています。平成 30 年度も引き続き、講座の開催をはじめ、教員との連携強化を図り、学校を通じた美術館の活用促進が進むよう努めます。

ただし、数値面で見ると、市全体の 14 歳以下の人口が減少傾向で、小学生美術鑑賞会の参加者である市立小学校６年の在籍者数も、開館時と比較して 15%ほど下降しています。このようななかで、中学生以下の観覧者数を毎年同じ水準で維持することは容易ではありません。こうした点から、平成 30 年度の観覧者数の目標は、これまで通りの 22,000 人とします。

［一次評価の理由］

30年度の中学生以下の年間観覧者数は20,805人で、目標を達成できませんでした。

中学生以下の観覧者数　（単位：人）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
幼児	7,202	5,668	11,562	5,246
小学生	12,639	12,414	12,335	11,748
中学生	4,332	4,126	3,448	3,811
計	24,173	22,208	27,345	20,805

横須賀美術館では従来、家族連れが訪れやすい時期に、若年層向けの展覧会を実施するという年間の展覧会計画により、目標を達成してきました。しかし、平成30年度は、夏季に開催した「三沢厚彦　ANIMALS in YOKOSUKA」を除くと家族層にアピールする要素が少なく、若年層の伸びにつながりませんでした。観覧者の総数が減っているわけではなく、総観覧者数に占める中学生以下の観覧者の比率が下がったという状況です。

観覧者の中心となる年代が、より高い方へと移行した理由については、少子高齢化という社会的な要因もありますが、平成30年度に関しては、展覧会内容の反映という面が大きいと捉えています。本項目の目標達成度は、その年の展覧会の内容によって、ある程度上下動することが避けられません。今後の継続的な目標達成に向けては、展覧会計画のさらなる工夫と、家族層に向けた積極的なＰＲに取り組む必要があると考えます。

【実施目標】

・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する。

・学校及び関係機関と緊密に連携し、子どもたちにとって親しみやすい鑑賞の場をつくる。

・学校との連携を強化し、小学生美術鑑賞会を充実させる。

・美術館を活用した鑑賞教育がいっそう充実するよう、アートカードの活用促進をはじめ教員の授業作りに有益な情報提供を積極的に行う。

・子どもたちとのコミュニケーションを通じて、美術の意味や価値、美術館の役割などに気づき、考え、楽しみながら学ぶ機会を提供する。

・鑑賞と表現の両方を結びつけたプログラムを実施する。

［目標設定の理由］

美術教育は表現と鑑賞との両輪によってなりたつものですが、学校教育においては、時間配分の面でも内容の面でも、鑑賞は最小限で、表現が学習の中心になりがちです。

しかし、近年の小・中学校の学習指導要領では、鑑賞教育を重視する傾向が強まっています。平成 23 年以降の学習指導要領では、小・中いずれにおいても、美術館・博物館の活用や連携が示されているほか、鑑賞を通して言語活動を充実させることが重視されています。平成 29 年に告示された新学習指導要領では、こうした方向を引き継ぎつつ、さらに、校外での児童の作品展示（小中学校）や、学校における鑑賞のための環境づくり（中学校）について、言及があります。こうした状況を踏まえ、美術館は学校のニーズを積極的に汲み上げていく必要があります。

同時に、学校ではできない、美術館だからこそできるプログラムを通して、子どもたちが美術に親しむ機会の拡充に努めることも重要です。家族で参加する鑑賞教室やワークショップ、アーティストによる子ども向けワークショップなど、美術館ならではのプログラムを企画、提供し、子どもたちへの美術館教育を推進します。

［一次評価の理由］

平成30年度の展覧会以外の子ども向け事業および学校連携事業については、以下の各項目のとおり、順調に実施することができました。

・子ども向けワークショップ　５回開催　　参加者数115人（保護者を含む）
・「集え！英雄豪傑たち」展関連「甲冑着付け体験」　３日間開催　参加者数324人
・夏の野外シネマパーティー　２日間開催　参加者数760人（保護者含む）
・児童生徒造形作品展の開催　17日間開催　観覧者数14,854人
・小学生美術鑑賞会（全市立小学校６年生と教員）　参加者数3,374人
・中学生のための美術鑑賞教室　13回開催　参加者数115人（保護者を含む）
・市立中学校の職業体験受け入れ　14校　23人
・先生のための美術館活用講座　１回開催　参加者数39人
・市立保育園10園対象の鑑賞プログラム　のべ参加者数約500人
・市外の学校等に対するアートカードの貸し出し　14件
・「児童生徒造形作品展」は、観覧者数が昨年に比べ1割以上伸びました。チラシに掲載される保護者無料クーポンのレイアウトを工夫し、造形展観覧者を所蔵品展および谷内六郎館を積極的にアピールしたことが観覧者増につながったと考えています。
・小学生美術鑑賞会に際し、先生方には、できる限り下見と打ち合わせのため来館していただき、合わせて、アートカードを使った事前授業の効果などをお伝えしています。近年の、作品に対する児童の反応は以前に比べ生き生きとしており、事前授業をはじめとする先生方の取り組みの成果と捉えています。
・美術館が主体となって行う事業だけでなく、先生が中心となり学校で行うことのできる鑑賞教育について、研究と実践を重ねています。平成25年度に教員とともに開発した鑑賞教材「横須賀美術館アートカード」（文化庁補助事業）は、市外への貸し出しが今もって続いています。また、教員を対象とした「先生のための美術館活用講座」を開催し、学校現場との関係強化を図りました。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	B

【達成目標】環境調査の実施（年２回）
美術品評価委員会の開催（年１回）

［目標設定の理由］

作品収集は、美術館としての基本的な活動のひとつです。ただし、新規収蔵作品の数量の多寡は、状況に左右される部分が大きく、また、多ければ多いほどよい、という性質のものでもないため、数値目標とするにはふさわしくないと考えます。

収集のための情報収集や調査を継続的に行っていれば、受け入れの可否を諮問するために美術品評価委員会を開催することとなります。ここでは、少なくとも年に１回、美術品評価委員会を開催することを、収集活動に関する数値目標とします。

また、収蔵庫と展示室の環境が作品の保管、展示に適しているかどうか調べる環境調査を、年２回実施することを、保管に関する数値目標とします。

［一次評価の理由］

環境調査については、従来、収蔵施設のみを対象としていましたが、今年度は、本館及び谷内六郎館の展示室、事務棟内の閉架書庫について、歩行性昆虫の調査を実施することとし、５月７日～６月４日、７月６日～８月６日の日程で２回実施しました。

また、寄贈の申出のあった作品についての調査を行い、諮問のため美術品評価委員会を３月18日に開催しました。

【実施目標】

- **収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う。**
- **適正な保管環境を維持し、そのチェックのため必要な調査を実施する。**
- **計画的に所蔵作品の修復、額装を行う。**
- **所蔵作品が広く価値を認められ、他の美術館等で開催する企画展などに活用されている。**

［目標設定の理由］

すぐれた美術作品をひろく収集し、次世代に伝えてゆくことは、美術館の果たすべき基本的な役割です。そのために、保管のための適切な環境整備と、作品そのものの修復および保護を行っています。他の機関での展示等の所蔵品の活用は、作品への影響を充分に考慮したうえ、可能な範囲で行っています。

［一次評価の理由］

平成30年度は島田章三、矢崎千代二ら地域にゆかりのある作家の作品を中心に、作品34点、資料２点の計36点の寄贈を受け入れました。また、懸案であった作品購入を可能にする仕組みづくりについて検討を進め、今年度より新たな基金を設けて、「ふるさと納税」の寄附金を作品購入のために積み立てる道筋ができました。

環境調査では、収蔵施設については、例年とほぼ同じ良好な結果が得られた一方、今年度から新たに歩行性昆虫についての調査を行った展示室では、シミをはじめとする複数の昆虫類が確認されました。このことを受けて、調査後の９月９日、本館１階の展示室１～３（企画展示室）を対象として、害虫防除のための薬剤（ブンガノン）の散布を実施しました。今後も調査を続けて状況の変動に注意し、臨機に必要な処置を行っていきます。

修復・額装について、近年寄贈を受けた作品の新規額装や、今年度開催した「矢崎千代二展」にともなう矢崎作品の額装を中心として39件の作品について実施しました。

所蔵作品の他館での活用について、30年度は瀬戸内市立美術館で開催された「清宮質文展」への貸出１件、50点にとどまりました。例年と比べるとかなり少ないですが、今後も多くの貸出予定が控えており、30年度の空白は偶然の産物であると考えます。

まだ実際に作品を購入してはいませんが、そのための道筋がつけられたことは、これまでの状況を変えるための一歩前進であるといえます。いっぽう、環境調査の範囲を拡大した結果、展示室の環境は必ずしも良好とはいえないことがわかりました。今後の改善を目指さなくてはならないことから、一次評価を「Ｂ」としました。

［次年度への課題］

・「ふるさと納税」を通じた寄附金の積み立てによって、実際に作品が購入できるようになるのは、早くても令和２年度以降となります。令和元年度は、購入のための情報収集のほか、具体的な仕組みづくりを行います。
・展示室を含む施設の保管環境を注視し、必要に応じて改善のための処置を行います。
・所蔵作品の現況調査を進め、展示計画を考慮した適切な修復・額装を行います。

Ⅲ　訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】

・館内アメニティ満足度 90%以上

・スタッフ対応の満足度 80%以上

［目標設定の理由］

・当初は目標値が一定ではなく変動していましたが、一つの適正基準を設け、それに対しての達成度による評価をしていただくよう、目標値を固定しました。

・達成目標の適正基準として、それぞれ 90%以上、80%以上を設定しました。
この目標値は、過去の実績を参考に、目標を高く持ちつつも達成が決して不可能ではないと思われる数値であり、言い換えれば、目標値の達成イコールかなりの高水準を維持できていると思われる数値としました。

・満足度は、来館者アンケートの質問８項目（アクセス、館内印象、静かさ、スタッフ、休憩所、トイレ・授乳室、清潔感、総合）の内、外部要因や展覧会等の企画内容による影響を受けにくい２項目（スタッフ、総合）を指標として使用しています。

・館内アメニティ満足度については、来館者アンケートの質問事項「全体的にみて、館内では気持ちよく過ごせた。」に対する満足度（総合満足度）、スタッフ対応の満足度については、来館者アンケートの質問事項「スタッフの対応・案内は適切だった。」に対する満足度を指標としています。
なお、原因を究明し改善に役立てるため、24 年度から５段階評価に加え、「特によかったところ、よくなかったところ」を具体的に記述していただく欄を設けています。

［一次評価の理由］

館内アメニティ満足度、スタッフ対応の満足度はともに高水準で推移しています。館内アメニティ満足度については、平成29年度に続き目標を達成しており、スタッフ対応の満足度についても高水準で目標を達成しています。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
館内アメニティ満足度	92.6%	92.3%	92.8%	95.1%
スタッフ対応の満足度	87.5%	86.0%	86.8%	88.5%

館内アメニティ満足度に関しては、「美術館入口やトイレの場所がわかりにくい」など、案内サインに係るご意見をお客様から頂戴していますので、改善に向けて今後も工夫を重ねていきます。

【実施目標】

・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う。

・受託事業者と協力して、ホスピタリティのある来館者サービスを実践する。

・運営事業者と協力して、付帯施設（レストランおよびミュージアムショップ）を来館者ニーズに応じて運営する。

［目標設定の理由］

・横須賀美術館が来館者に好ましい印象を持たれている大きな要因の一つは、周囲の豊かな自然と、その風景と調和したユニークな建物です。しかし、海のそばに立地しているため、強い風雨にさらされることも多く、また塩害などによる老朽化が進んでいることも事実です。建築の魅力をいつまでも来館者に伝えていくためには、適切なメンテナンス、清掃を継続していくことが重要です。

・また、スタッフの対応によって、美術館に対する印象は大きく左右されますので、受付・展示監視スタッフ等の受託事業者との緊密な連携を図り、来館者の立場に立ったより良い接客を目指します。

・美術館を訪れた際の買い物や食事も、来館者の大きな楽しみです。レストランおよびミュージアムショップと連携し、来館者のニーズに即応したサービスの提供がなされるよう、知恵を出し合い、工夫を重ねていきます。

［一次評価の理由］

（メンテナンス）

・本館ガラスの修繕や谷内館中庭の雨水排水の改良を行いました。

・本館正面のフットライトの修繕や、自動ドア修繕など、お客様が安心して利用できる環境の維持に勤めました。

・空調関連設備の故障や経年劣化部分について修理を行いました。

【平成30年度の主な修繕（100万円以上の案件を抽出)】

区分	案件	金額（円）
建物	横須賀美術館展示棟外壁ガラス改修工事	4,644,000
設備	空調熱源設備修繕	2,484,000
	空調機修繕	1,026,000
	空調自動制御装置システム更新修繕	27,864,000

（清掃）
・日常の清掃について、利用状況に応じて重点を移す効率的な清掃を心掛けています。

（休憩所）
・繁忙期（ＧＷ・夏季）の休憩所を確保するため、26年度からワークショップ室前に簡易休憩所（屋外用テーブル・椅子）を設営しています。利用率も高く、好評をいただいていますので、今後も継続していきます。

（受付・展示監視）
・受付や展示監視に従事するスタッフは、来館者と直に接するためクレームの対象となりやすい立場にあります。特に展示監視は、展示物に触ろうとする来館者や迷惑行為をしている来館者への注意などを行うため、クレームを受けやすい業務です。年に数件のクレームはありますが、受託事業者の自助努力（研修、スタッフの入替など）や、館内における情報の共有化の促進によって日々改善の努力を続けており、満足度の数値も一定以上の水準に達しています。

・情報の共有や、来館者への対応方法の指示などをきめ細かく行う目的で、来館者からのクレーム内容や対応の記録を日報として毎日提出するよう、平成21年度より展示監視スタッフに義務付けています。
また平成26年10月の受託事業者変更時から受付スタッフにも日報の提出を義務付けており、課題が生じた場合に迅速に対応する事ができるようにしています。

・現在の受託事業者においては、社内講師による研修や外部講師による接遇マナー研修を実施するとともに、事業者独自の覆面調査員による接遇チェックも行なわれており、その結果はスタッフ対応の満足度向上となって現れていると考えられます。

（ミュージアムショップ）
・利用者アンケートの満足度が向上するよう、定期的な打合せを実施し事業者と協力しています。

（レストラン）
・メニューの見直しなど運営事業者の自助努力により満足度はかなり向上しています。満足される理由としては、「質の高い食事」「おいしい」のほか、「景色がよい」ことも挙げられています。

・企画展ごとに、展示のイメージや内容に合わせた「コラボレーションメニュー」を考案して提供しており、好評を博しています。

・顧客のストレスを軽減するため、土日祝日の混雑時（12時～15時）については事前予約をとらず、先着順に対応しています。

（災害への備え）
・例年通り年２回の防災訓練を実施しました。避難経路の確認および誘導に重点を置いた実践に即した内容で、受付展示監視をはじめ事業者のスタッフも参加して充実した訓練となりました。

（その他）

・平成21年度より、毎月１回、レストラン、ショップ、受付展示監視、警備、広報、総務、学芸の参加による運営事業者連絡会議を開催し、館内で起こっている諸問題について情報共有、改善の提案、検討を行なっています。平成26年度からは設備日常監視業務の受託事業者も参加しています。

・混雑が予想される連休等にあわせて、ケータリングカーを誘致し、より多くの来館者に軽食等を提供できるようにしています。（平成20年度以降継続）

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
A	A

【達成目標】　福祉関連事業への参加者数延べ 360 人以上

［目標設定の理由］

・福祉関連の事業は、内容の充実を図るために対象や参加人数を限定する場合があり、そうした場合は参加者数が減ることとなります。しかし、限定したからこそ、対象の特徴に応じたプログラムの計画実施が可能となり、普段美術館を利用しにくい方でも参加することができる事業を行うことができます。

・上記のような事情により、福祉関連事業は、その年の事業の性格次第で参加者数の増減が大きくなりがちです。そこで、過去の事業内容と参加者数、平成 30 年度の事業内容を考慮し、360 人以上を平成 30 年度の目標値としました。

［一次評価の理由］

30年度の福祉関連事業への参加者数は延べ426人となり、目標を達成しました。

福祉関連事業への参加者数　（単位：人）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
福祉関連講演会	28	27	12	22
福祉関連イベント	45	84※1	37	41
				14
みんなのアトリエ（障害児者向けワークショップ）	189	192	197	255※1
未就学児ワークショップ	31	39	33	39
他館連携（MULPA）	―	―	133※2	55※2
計	318	361	435	426

※1　みんなのアトリエ参加者数は、保護者やきょうだい児を含みます。

※2　他館連携は平成 29 年度から令和 2 年（2020 年）度までの実施とし、令和 3 年（2021 年）度以降については、一部事業を継続していくか、他事業と合わせて検討する予定です。

【実施目標】

・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う。

・必要に応じて、対話鑑賞等の人的サポートを実践する。

・展覧会の観覧やワークショップ等に参加される保護者向けの託児サービスについて、積極的に周知し、利用しやすい内容で実施する。

［目標設定の理由］

・各種事業を通じて、美術館が健常者のみの施設ではないこと、障害の有無に関わらず美術を楽しめること、また各年齢や状況に応じた楽しみ方があることを伝えていきたいと考えています。

・設備や什器を新規に導入することは難しいため、対話鑑賞のような人的対応によるプログラムを充実させることによって、福祉の充実につなげたいと考えています。

・障害者等のニーズを、職員が実践を通して知ることによって、次年度以降の取り組みや長期計画に活かしていきたいと考えています。

・子どもを持つ方が安心して美術館事業に参加できるよう、託児サービスを行っています。平成 30 年度より、託児の利用者数を目標値に含めないこととしましたが、託児は引き続き実施されます。託児の利用者数を目標値に含めないこととした理由は、事業の内容によって託児の利用者数は増減するものの、それが必ずしも、本項目（⑦）の達成度合いを反映しているものではないと考えられるためです。たとえば、乳幼児が一緒でも観覧しやすい展覧会や、年齢制限のないワークショップを実施した場合、託児の利用者数は少なくなりますが、この場合でも、⑦の目標は、託児とは別な形で実現されたと見なされます。乳幼児を持つ人が、それによって美術館利用を妨げられることのないよう、平成 30 年度も引き続き、適切に託児を実施するとともに、そのための周知に努めることとします。

［一次評価の理由］

・障害児者向けワークショップ「みんなのアトリエ」は、広報を強化したほか、内容面でも新しいメニューを取り入れるなどして、参加者を増やすことができました。

・福祉イベントの新しい取り組みとして、横須賀市点字図書館と連携し視覚障害者のための出張鑑賞会を行い、今後に向けた手ごたえが得られました。

・平成30年度の養護学校、支援学級、療育センター等の受け入れは、４施設でした。

・他館連携（MULPA）は、かながわ国際交流財団のよびかけのもと、近隣美術館とともに、障害者や定住外国人等の美術館利用を促進するための普及事業を検討実施するプロジェクトです。平成30年度は、横須賀市障害福祉課と連携し、市内の福祉施設や作業所の職員を対象としたレクチャーおよび意見交換会を行いました。今後も障害福祉課とともに、施設での創作活動を支援する動きを発展させていきたいと考えています。

・MULPA 関連の単発事業として、受付・展示監視スタッフを対象に、障害のあるお客様へのサポートについて学ぶ研修会を実施しました。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

〔一次評価〕

達成目標	実施目標
B	A

【達成目標】　電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近３年間の平均値を目安とする。

［目標設定の理由］

・電気料、水道使用料は、美術館の総事業費の約２割弱を占めることから、達成目標を定め管理していく必要があります。平成30年度は、契約電力を620 kW から600 kW に変更を行い電気料の削減を図りました。

・職員が努力した効果を目に見えて感じることができるように、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を、直近３年間（H27～H29）の平均値を目安・目標としています。

［一次評価の理由］

	H27	H28	H29	H30（目標）	H30（実績）	達成率
総電気使用量(kWh)	2,540,390	2,441,219	2,539,289	2,507,000	2,625,210	0.95
水道使用量(㎥)	4,396	4,394	4,608	4,470	4,635	0.96
事務用紙使用枚数(枚)	211,250	253,550	259,550	241,500	226,500	1.07

電気使用量については直近３年間の平均値を上回り、水道使用量については平均値程度、事務用紙使用枚数について目標数値を下回りました。目標数値を下回った理由としては、以下のものが挙げられます。

（１）夏季、冬季の空調使用量増による電気使用量増
（２）夏季の空調機稼働増による水道供用量増

【実施目標】　職員全員が費用対効果を常に意識し、事業に取り組む。

［目標設定の理由］

・サービスを低下させず経費を削減しスリムな運営体制を目指すためには、職員全員が費用対効果を常に意識した行動が必須であると考え、実施目標としました。

［一次評価の理由］

・各業務の予算執行時には、複数業者からの見積書徴収や競争入札を行うなど、業務の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を執行し、経費削減を実現しています。
具体的な内容の主なものは、次のとおりです。

（１）事業者選定においては、定められた基準等により契約額及び契約先は入札によって決定します。特定の業者でなければ実施できない業務を除いて見積り合せを行っています。この結果、事業の質を担保しつつ最も少ない経費で業務を実施しています。

・展覧会関連の出張については、スケジュールをまとめ、出張経路を最短に設定し、経費を削減しています。

・一部の案内パンフレットについては、印刷業務委託ではなく、手刷りで作成することで、より少ない経費で業務を執行しています。

・事務用品についても在庫の整理を実施しながら、必要な物の調達を行っています。

［次年度への課題］

・電気使用量や水道使用量は天候や観覧者数等に影響される傾向がありますが、他方で職員の業務執行においては無駄な使用を控えるという意識を持ち続けるように、定例会議等で啓発を行います。

・業務執行において経費を節減することは当然ですが、同じ費用の中で最大限の効果を発揮できるように、計画段階や業務執行の中で継続して考えていきます。